

だんご坂通信 No.2



息切れ感じていませんか？

「最近、歳のせいか息が切れる」と訴えられる患者さんが目立ちます。

私のクリニックが、呼吸器科を標榜していることや、いささか急勾配の団子坂の上という事情もあるかと思いますが、こうした息切れが、今回のテーマのCOPDという

病気によることも多いと考えられます。COPD（慢性閉塞性肺疾患と訳されています）、聞き慣れない名前の病気ではありますが、患者さんは軽症の方も含めると日本でも500万人以上と報告されています。

症状は、労作時の息切れのほか、慢性の咳や喀痰で、こうした症状がゆっくりと増悪し進行して行くことがこの病気の特徴です。

喫煙や、大気汚染等による有害粒子（ガス）の吸入が原因であり、これによって肺が障害を受け、その機能が低下して酸素が十分に取込めない状態になってしまうためにおこる病気です。中でも喫煙はもっとも重要な原因で、症状がありながら喫煙を続け、重症のCOPD（ちょっとした動
作で息切れがでるため、外出もまま
ならない状態）になってしまった
患者さんを見受けることも珍
しくありません。この病気の怖い
ところは、症状が悪化してか
ら禁煙したとしても、禁煙により症
状が改善する（肺の機能がも
いと戻ること）が無いことです。
いったんなってしまったら取
り返しがつかないと云う意味では、
れほど怖い病気はありません。
はありますが、重症の患者さんに
対する効果は限られています。



一口メモ

COPDにならないために

一にも二にも禁煙が重要ですが、明らかな自覚症状がなくても、すでに肺の機能が低下してきている患者さんがいます。肺機能をしらべる検査は、子供の頃にやる肺活量の測定検査に似ていて、比較的簡単に受けられます（左写真）。

1日20本以上の愛煙家で、40歳以上の方は、特に、この肺機能検査を受けることをおすすめします。こうした検査の結果を基に、患者さん御自身が、現在の肺の状態を把握

し、禁煙に努めれば、COPDの発症や進行を抑えることが可能です。S.K.

